

職業実践専門課程の基本情報について

学校名		設置認可年月日	校長名		所在地			
日本電子専門学校		昭和51年9月10日	古賀 稔邦		〒169-8522 東京都新宿区百人町一丁目25番4号 (電話) 03-3363-7761			
設置者名		設立認可年月日	代表者名		所在地			
学校法人電子学園		昭和38年12月17日	多 忠貴		〒169-8522 東京都新宿区百人町一丁目25番4号 (電話) 03-3363-7761			
目的	モバイルアプリケーション開発企業と連携し、開発の全工程(企画・設計・実装・公開)と、それを取り巻くネットワーク、サーバ、データベースを学ばせることにより、実践的な開発の知識と技術を持ったアプリケーション開発エンジニアを育成する。							
分野	課程名		学科名		専門士		高度専門士	
工業	工業専門課程		ケータイ・アプリケーション科		平成22年文部科学大臣告示第152号		-	
修業年限	昼夜	総授業時数	講義	演習	実習	実験	実技	
2年	昼間	1710	420	30	1260	0	0	
単位時間								
生徒総定員		生徒実員		専任教員数		兼任教員数		総教員数
80人		83人		6人		3人		9人
学期制度	<ul style="list-style-type: none"> ■前期: 4月1日～9月30日 ■後期: 10月1日～3月31日 			成績評価		<ul style="list-style-type: none"> ■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 評価基準は、90点以上を秀、80点以上90点未満を優、70点以上80点未満を良、60点以上70点未満を可、59点以下を不可とする。 成績評価は、試験、平常の成績、成果物等により行う。 		
長期休み	<ul style="list-style-type: none"> ■学年始め: 4月1日 ■夏季: 8月1日～9月10日 ■冬季: 12月21日～1月9日 ■春季: 3月21日～4月6日 ■学年末: 3月31日 			卒業・進級条件		<ul style="list-style-type: none"> ■卒業条件 学科の教育課程に定められた必修科目(選択必修科目を含む)のうち、卒業学年までに履修しなければならない科目を修得(成績評価が可以上)した者。卒業条件に該当しない者は、原級留置とする。 ■進級条件 学科の教育課程に定められた必修科目(選択必修科目を含む)のうち、当該学年までに履修しなければならない科目を修得(成績評価が可以上)した者。 		
生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> ■クラス担任制: 有 ■長期欠席者への指導等の対応 電話・メール連絡、個人面談 自宅訪問、保護者連携 			課外活動		<ul style="list-style-type: none"> ■課外活動の種類 学園祭、各種展示会見学、展示会出展 体育祭 ■サークル活動: 有 		

就職等の 状況	■主な就職先、業界等 廣濟堂、リーディング・エッジ、 Vasily、CLINKS、等、 モバイルアプリ開発業界、システ ム開発業界、ゲーム業界	主な資格・ 検定等	Androidアプリケーション技術者 モバイルシステム技術検定(MCPC) オラクル認定Javaプログラマ HTML5プロフェッショナル認定試験 基本情報技術者
	■就職率^{※1} : 96 %		
	■卒業者に占める就職者の割合^{※2} : 88.9 %		
	■その他 就職以外の進路は、留学生の帰 国。 (平成 27 年度卒業者に関する 平成28年5月1日 時点の情報)		
中途退学 の現状	■中途退学者 4 名	■中退率 5.7 %	
	平成27年4月1日 在学者 70 名 (平成27年4月1日 入学者を含む) 平成28年3月31日 在学者 66 名 (平成28年3月31日 卒業者を含む)		
	■中途退学の主な理由 経済上の理由、健康上の理由		
	■中退防止のための取組 担任制、キャリアセンターサポート体制、新入生準備教育、学習目標設定・管理、個人 面談、保護者連携、出席管理、学生相談、カウンセリング、自宅訪問		
ホームページ	URL: http://www.jec.ac.jp		

※1「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」の定義による。

①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したもとする。

②「就職率」における「就職者」とは、正規の職員(1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいう。

③「就職率」における「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者は含まない。

(「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等としている。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除いている。)

※2「学校基本調査」の定義による。

全卒業生数のうち就職者総数の占める割合をいう。

「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいう。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしない(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う。)

1. 教育課程の編成

(教育課程の編成における企業等との連携に関する基本方針)

アプリケーション開発エンジニアを育成するために、企業と連携して、下記①②を踏まえた教育課程の編成、新たな科目の設定、既存科目の内容・教育手法の改善、教材の開発、エンジニアにとって必要となるアプリケーション開発の知識や最新技術などについて、実践的かつ専門的な職業教育の実施に向けた協議・検討を行う。

- ① モバイルアプリケーションの企画・設計・実装・公開までの開発工程全てを担当できる人材育成手法。
- ② 最新のモバイルアプリケーション開発の技術動向を把握し、実践的な職業教育を実施するため、最新技術の指導教材・教育手法。

(教育課程編成委員会等の全委員の名簿)

平成28年5月1日現在

名 前	所 属
満岡 秀一	一般社団法人Open Embedded Software Foundation 理事
渡辺 登	株式会社アフレル 事業企画室 室長
古賀 稔邦	日本電子専門学校 校長
杉浦 敦司	日本電子専門学校 教育部 部長
佐々木 卓美	日本電子専門学校 教務部 部長
船山 世界	日本電子専門学校 キャリアセンター センター長
大川 晃一	日本電子専門学校 ケータイ・アプリケーション科 学科長

(開催日時)

第1回 平成27年9月18日 14:00～16:00 開催

第2回 平成28年3月 4日 14:00～16:00 開催

2. 主な実習・演習等

(実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針)

アプリケーション開発企業で活躍できるエンジニアを育成するため、現場のエンジニアからアプリケーション構築演習の指導を受ける。演習では、最新技術動向の指導を取り入れるとともに、開発に必要とされる一連の工程を実践的に経験することを基本方針とする。

科 目 名	科 目 概 要	連 携 企 業 等
Android I	アプリケーションの実装技術において、連携しているモバイルアプリケーション開発企業の現役エンジニアから、最新技術の正しい利用方法やその課題、現場において必要とされている実装手法について指導を受ける。	株式会社チェリービット
Android卒業制作	卒業作品制作の授業において、企業等のエンジニアから課題設定などの意見をいただき、その企画内容、実現するための技術や設計・実装ポイントなどの指導を受けてアプリケーションの完成を目指す。	株式会社チェリービット
資格対策Ⅱ	Androidアプリケーション技術者認定試験の試験対策授業において、リリースの頻度の多いAndroid全体のアーキテクチャの指導をしていただき、また出題ポイントの解説を行い、認定試験の合格を目指す。	株式会社チェリービット

3. 教員の研修等

(教員の研修等の基本方針)

学校関係者評価委員会の分野別分科会、ならびに教育課程編成委員会の意見や検討内容の他、アプリケーション開発業界の動向をもとに、現在教員に不足している知識、技術、技能に関する研修や教育的資質に関する研修を研修規定に則って実施する。

これまでは、情報処理業界ならびにITに特化した情報処理の研修企業が主催する研修に参加していたが、今後は更に連携するアプリケーション開発企業や団体から講師を招き、最新の技術・知識を習得するための研修を計画・受講し、授業への展開や、オリジナル教材等にも反映させることを基本方針とする。

4. 学校関係者評価

(学校関係者評価委員会の全委員の名簿)

平成28年5月1日現在

名 前	所 属
石本 則子	株式会社スタジオフェイク
井沢 祐	株式会社スタジオフェイク
内田 昌宏	株式会社 ラック
乗浜 誠二	株式会社 ナレッジコンスタント
舟山 大器	株式会社横浜環境デザイン
尹 剛志	株式会社++ (ソット)
浅賀 央起	株式会社ぴえろ
川崎 紀弘	株式会社AZホールディングス
渡辺 登	株式会社アフレル
満岡 秀一	一般社団法人 Open Embedded Software Foundation
宮井 あゆみ	公益社団法人画像情報教育振興協会 (CG-ARTS協会)
中台 浩正	東京商工会議所 新宿支部
原 洋一	一般社団法人 コンピュータソフトウェア協会
米井 翔	一般社団法人 組込みシステム技術協会
長崎 晶彦	東京都立 荻窪高等学校
勝間田 清一	私立 明星学園高等学校
沼田 宏	株式会社インターカルト日本語学校
小澤 博太郎	百人町西町会
中山 秀昭	卒業生 株式会社 ヴァル研究所
谷 伸城	卒業生 株式会社アプリケーション プロダクト
二俣 久美	保護者
秋永 美穂	在校生
大宮 晃平	在校生
宜保 吉弥	在校生

(学校関係者評価結果の公表方法)

:URL:<http://www.jec.ac.jp/school-outline/disclose/occupation-practice.html>

5. 情報提供

(情報提供の方法)

ホームページ、広報誌等の刊行物、その他(授業成果発表会、進級・卒業制作発表会、学科ニュース)

URL:<http://www.jec.ac.jp>

授業科目等の概要

(職業実践専門課程 ケータイ・アプリケーション科) 平成28年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			データベース	データとモデルの関係、RDBMSの一般的なアーキテクチャ、主要なRDBMSの特徴を踏まえた上で、MySQLにおけるSQLの各種構文（問い合わせ、DML、トランザクション制御）について学習します。	1後	60		○		△	○		○		
○			ネットワーク概論	モバイル機器およびモバイルアプリケーションの構築に必要なコンピュータネットワークについての基礎知識を学習します。特に、クライアント/サーバ通信の成立について、プロトコルスタックレイヤの構造、各種ネットワークメディア、TCP/IP、アプリケーションプロトコルについて学習します。	1前	30		○			○		○		
○			情報概論	コンピュータの基礎知識（ハードウェア、ソフトウェア、OS）を踏まえた上で、データの内部表現（進数、基数変換、文字符号化方式）、アルゴリズム、データ構造について学習します。	1前	30		○			○		○		
○			Linux	OSの役割を踏まえた上で、Linuxの基本コマンドを使用しながら、ファイル操作、viの基本操作、テキスト処理、ファイルのアクセス制御について学習します。	1後	30				○	○		○		
○			UML	UMLを用いた、オブジェクト指向分析設計について学習します。合わせて、開発プロセスと各プロセスの役割、各種開発プロセスモデルについても学習します。	2後	30				○	○		○		
○			コンテンツ制作	モバイルアプリケーションで使用するデジタルコンテンツ（画像、動画、音）の作成方法について学習します。	2前	60				○	○			○	
○			HTML5	Webシステムの最も基本的なクライアントサイド技術であるHTML5、CSSについて学習します。ここでは、HTML5における主要な要素の利用方法、CSSのセレクターの基本文法と利用方法について学習します。HTML5プロフェッショナル認定資格にも対応します。	1前	60		△		○	○		○		
○			Java	Javaプログラムの動作原理を踏まえた上で、Javaによるプログラム作成の手順、Javaの基本文法（変数と型、各種演算子、フロー制御、配列、メソッド、クラス、インターフェイス、パッケージ）について学習します。また、Java APIに含まれる文字列操作、コレクション、例外に関する標準ライブラリの用途と利用方法について学習します。	1前	120		○		△	○		○		

○		モバイルプログラミング	iOSプログラミングを通して、モバイル・アプリケーションの開発方法を学習します。具体的には、統合開発環境であるXcodeの基本的な使用方法（プロジェクトの作成・削除方法、ビルド、エラーの見方、エミュレータの設定と起動方法、プログラムの作成方法）、Swiftによるプログラミングについて学習しま	1前	120		△	○	○	○			
○		Webシステム開発	Webシステムのサーバーサイド技術の基礎について学習します。ここでは、PHPの基本文法の学習から始め、HTTP通信（リクエスト・レスポンスの仕組み、パラメータの送受信）、データベースサーバーとの連携、JSONデータの取り扱いについて学習します。	2前	60		△	○	○	○			
○		Webフレームワーク	Webシステムのサーバーサイド技術について学習します。ここでは、セッション管理、認証、リレーショナルデータベースとの連携について学習します。更に、レンタルサーバーでのWebシステム公開を目指し、モバイルアプリケーションとの連携についても学習しま	2後	60		△	○	○	○			
○		セキュアコーディング技法	プログラミング技術の不備に起因する様々なセキュリティリスクを踏まえた上で、セキュアなアプリケーションを構築するためのコーディング技法について学習します。	2後	30			○	○	○			
○		AndroidプログラミングⅠ	Androidアプリケーションの開発技術について学習します。ここでは、Android Studioの基本操作・設定方法から始まり、小規模なアプリケーションを開発し、レイアウトとビュー、イベント処理の方法について学習し	1後	120		△	○	○	○			○
○		AndroidプログラミングⅡ	サービスやインテントを活用した高度なAndroidアプリケーションの開発技術について学習します。具体的には、動画処理、データ処理（CSV、JSON、データベース）、カメラ、Google Map APIを利用したAndroidアプリケーションの開発について学習します。	2前	120		△	○	○	○			
○		iOSプログラミングⅠ	モバイルプログラミングで学習した内容を踏まえて、ハードウェアコントロールを伴ったiPhoneアプリケーション開発技術について学習します。また、プログラミング言語Swiftの基本文法についても学習します。	1後	120		△	○	○	○			
○		iOSプログラミングⅡ	各種プラットフォームを扱うとして、Google Playストアに従って、App Storeで販売できるiOSアプリケーションの開発を行います。また、ここでの成果を後期の卒業研究に結びつけます。	2前	120		△	○	○	○			
○		Android卒業制作	Androidのアプリケーション、Webシステムを2年間の集大成として作成します。個人、または、少人数のグループで研究課題を設定、調査したものをシステムとして構築します。	2後	150		△	○	○	○			○
○		iOS卒業制作	iOSのアプリケーション、Webシステムを2年間の集大成として作成します。個人、または、少人数のグループで研究課題を設定、調査したものをシステムとして構築します。	2後	150		△	○	○	○			
○		ビジネスマネジメントⅠ	ビジネスマネジメントの基礎について学習します。具体的には、企業活動と企業組織、企業会計（管理会計・財務会計）の目的とその基礎知識、知的財産権、データ整理技法、リスク管理、品質管理について学習します。	1前	30		○		○	○			
○		ビジネスマネジメントⅡ	ビジネスとそのマネジメントの基礎知識から、企業戦略の役割および基本的知識について学習します。	1後	30		○		○	○			

○		ビジネス企画	新規事業について広く社会で受け入れてもらえるように、事業計画・収益見通しを考え、資金・人材・製造・販売までのビジネスモデルを、グループワークを通して構築します。	2 前	30			○	○		○	
○		Office アプリケーション	Microsoft Office（Word、Excel、PowerPoint）の基本的操作を踏まえた上で、企業で取り扱われるドキュメントの形式・作成方法、プレゼンテーション資料の作成技術について学習します。	1 前	30			○	○		○	
○		就職活動リテラシー	コミュニケーションやプレゼンテーションの手法およびビジネスマナーなど、社会人として必須の知識を学び、就職活動に備えることを目的とします。	1 後	30		○		○		○	
○		モバイル ネットワーク	モバイル端末の種類と特徴、そのハードウェア構成を踏まえた上で、モバイルネットワークの周辺技術について学習します。特に、無線インターフェイス（IEEE 802.11x、Wi-Fi Alliance）、無線通信の暗号化技術（WEP、WPA）、クラウドコンピューティングサービスについて学習します。	1 後	30		○		○		○	
○		資格対策Ⅰ	Oracle認定Javaプログラマ試験の資格対策を行います。	1 後	30		○		○		○	
○		資格対策Ⅱ	Androidアプリケーション技術者認定試験の試験対策を行います。1年次に学習した内容に基づき、アンドロイド全体のアーキテクチャを理解し、認定試験の合格を目指します。	2 前	30		○		○		○	○
合計				26科目		1710単位時間						

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要件 「可」以上 (留意事項)	試験、提出課題、平常点を加味した成績評価において、全ての科目で	1学年の学期区分	2期
		1学期の授業期間	15週

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3（3）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。